

平成 2 6 年 6 月 1 5 日現在

機関番号：30102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720162

研究課題名（和文）現代における「New Americans（新アメリカ人）」の文学

研究課題名（英文）The Study of Contemporary American Women's Literature by New Americans

研究代表者

渡部 あさみ（Watanabe, Asami）

札幌大学・地域共創学群・准教授

研究者番号：90455006

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000 円、（間接経費） 270,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、主に1965年移民法改正以降に多くが移民した「New Americans（新アメリカ人）」と呼ばれるエスニック・グループのアメリカ女性作家、特にアジア系、メキシコ系、アラブ系の作家たちによるアイデンティティおよびコミュニティをテーマとする作品の研究を行った。

これらの作品から「アメリカ」および「アメリカ人」のアイデンティティ形成について、特に人種/エスニシティ、ジェンダー、階級などの文化的差異に関わる表象を分析考察し、女性作家たちのローカルかつグローバルな視点による創作から脱中心化への寄与を検証すると同時に、現代のアメリカ、そしてアイデンティティに関わる諸問題を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study examines contemporary literature by women of the New Americans, ethnic groups who largely immigrated after the 1965 reform of immigration law. In particular, this research focuses on works by Asian Americans, Mexican Americans, and Arab Americans which thematize identities and communities.

By analyzing conceptions of America and identity constructions which represent cultural differences such as race/ethnicity, gender, and class, this study investigates the ways in which these women writers decenter and relativize the existing notion of Americanness and create local as well as global perspectives through their work.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：アメリカ文学 アメリカ文化研究

1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者が「現代エスニック・アメリカ女性文学研究プロジェクト」として在籍していたメリーランド大学大学院アメリカ研究科において着想と指導を受け、2005年から継続して行う研究である。申請者は、これまで本研究プロジェクトにおいて、アメリカと日本でのシンポジウムを含む複数の学会発表、および国内学会でのエスニック・アメリカ女性作家ワークショップへのコメントとしての参加や論文発表により、継続的に研究成果を挙げてきた。本プロジェクトは、主に日系の現代アメリカ女性作家たちの研究から始まり、現代エスニック・アメリカ女性文学の研究へと発展した。2009年には札幌大学附属総合研究所から研究助成を受け、アジア系アメリカ人女性作家、カリブ系アメリカ人女性、メキシコ系アメリカ人などの作品に取り組んだ。

本研究は、以上の「現代エスニック・アメリカ女性文学研究プロジェクト」の成果のさらなる集積を目的とした。

本研究においては Mary C. Waters と Reed Ueda の編著 *The New Americans: A Guide to Immigration Since 1965* (2007) を基に、1965 年以降多くが移民した「New Americans (新アメリカ人)」と呼ばれるアラブ系、アジア系、メキシコ系のエスニック・グループの現代アメリカ女性作家の研究を行った。アメリカの移民政策においては 1920 年代から差別的な国籍別の割り当てにより移民が厳しく規制されてきた。しかし、1965 年の移民法改正を転機として大きく状況が変化し、東洋諸国の割り当ての拡充のみならず、家族の呼び寄せを無制限とし、親族の移民についても緩和された。その一方で、西欧諸国の移民に初めて規制をかけることとなった。この移民法改正の結果として「アメリカ人」は 21 世紀を迎えてさらに多様化を深めている。

申請者がこれまで研究してきた作家作品および本申請研究における作家作品は、近年アメリカの大学のアメリカ研究科の授業などで扱われるなどアメリカン・スタディーズにおいて注目されているが、研究はまだ集積されていない。しかし、「New Americans」とそのエスニック・コミュニティは急速に人口を増していると同時に、今後アメリカ内外で、文化、社会、政治において存在感を増していくグループである。彼女たちの自己およびエスニック・コミュニティの表象と、アイデンティティ形成に関わる研究は今後の「アメリカ」を考える上で重要性の高い研究だと考えている。

また、現代エスニック・アメリカ女性文学における表象は、その多文化性および女性作家たちの個人的経験が重視されてきた歴史的背景から、必然的にローカルかつグローバルな視点を提供すると同時に脱中心化に寄与し、変わりゆく「アメリカ」と「アメリカ

人」のアイデンティティの過去・現在・未来を映し出すものであると考えている。本研究課題を遂行することにより、現代エスニック・アメリカ女性文学およびアメリカ研究にさらなる貢献をすることを企図した。

2. 研究の目的

本研究では、主に 1965 年移民法改正以降に多くが移民した「New Americans (新アメリカ人)」と呼ばれるエスニック・グループのアメリカ女性作家、特にアラブ系アメリカ人、アジア系アメリカ人、メキシコ系アメリカ人の作家たちによる自己/コミュニティをテーマとする作品の研究を行った。これらの作品から「アメリカ」および「アメリカ人」のアイデンティティ形成について、特に人種/エスニシティ、ジェンダー、階級、身体などの文化的差異に関わる表象を分析考察し、エスニック女性作家たちの多様な表象から脱中心化への寄与を検証すると同時に、現代のアメリカ、そしてアイデンティティに関わる諸問題を探ることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の方法においては、アメリカでの文献資料調査・収集とその分析と考察が中心とした。また、期間中においてはアメリカ出張を 3 回行い、学会や研究会、ワークショップでの研究者との情報交換などを積極的に行った。

エスニック研究が最も進んでいるエスニック・スタディーズ研究科を持つカリフォルニア大学バークレー校では、エスニック・スタディーズ研究科附属図書館において文献資料調査をした。また、Asian American Collection でアジア系アメリカ文学関連の調査、Chicano/a Collection 文献資料調査においてメキシコ系アメリカ人文学関連の調査を行った。そして、研究科の「Trans-Americanity」ワークショップに参加した。

そして、かつて在籍したメリーランド大学大学院アメリカ研究科などを訪ね、大学院における研究者との情報交換、そして大学図書館および研究所での資料調査と収集を行った。文献・資料調査には、メリーランド大学の電子ジャーナルやオンラインシラバスなどを含めた各種データベースを利用した。また、Modern Language Association (MLA: 現代言語学会) においては、The Society for the Study of the Multi-Ethnic Literature of the United States (MELUS) の公開討論会などに参加、出席者と研究情報交換を行い、ボストン大学図書館でエスニック系アメリカ女性文学関連の調査を行った。その他、シカゴ大学、イリノイ大学においてエスニック・アメリカ女性文学についての文献資料調査を行った。

これらの文献資料やシラバスデータなどの資料を基に文学作品の調査・収集を行い、分析・考察を行った。

4. 研究成果

本研究では、主に 1965 年移民法改正以降に移住した「New Americans (新アメリカ人)」と呼ばれるエスニック・グループ、特にアラブ系アメリカ人、メキシコ系アメリカ人(チカーナ)、アジア系アメリカ人の女性作家たちによる自己/コミュニティをテーマとする作品を扱った。これらの作品から現代のアメリカおよびアメリカ人のアイデンティティ形成について、主に人種/エスニシティ、ジェンダー、階級、身体などの文化的差異に関わる表象を分析考察し、エスニック女性作家たちの多様な表象による脱中心化への寄与を検証すると同時に、現代のアメリカおよびアイデンティティに関わる諸問題を探ることを目的とした。

各エスニック・グループについて「New Americans」としての文脈から説明したい。

アジア系アメリカ人たちは、1965 年の移民法改正に多大な影響を受けている。この法改正により、アジア系の「New Americans」がエスニック人口構成を大きく変え、それまで中国系・日系を中心としていた「アジア系アメリカ人」も多様化した。特にインド系の人口は、米国国勢調査によると 1960 年に 8736 人であったのに対し、2010 年には 318 万人に激増し、中国系、フィリピン系に次いでアジア系として 3 番目となるエスニック・グループとなった。このような背景から、インド系文学も増えており、また、従来のアジア系移民文学とは大きく異なり、グローバルなディアスポラ主体が描かれ、次世代の「アメリカ」を映す新しい特徴が見られている。

メキシコ系アメリカ人は第 2 の人口規模のエスニック・グループであり、400 年前から今日まで大量に移住しており、移民として最も長い歴史を持つ一方で「New Americans」も多い。特に 1965 年以降は第四波の大量移民により、メキシコ系のディアスポラ・コミュニティはアメリカの南西部から全米各地に広がった。現代において最も多様でその文化背景から急速に人口増加を続けるエスニック・グループであり、現代および未来のアメリカはメキシコ系アメリカ人の存在をなくして語ることができないといえる。

そして、アラブ系アメリカ人については、アラブ系アメリカ文化がステレオタイプに反して、国籍・エスニシティ・宗教など、近年ますます多様となっていることは主流文化においては見過ごされる傾向にある。9/11 の事件以降は、否定的なイメージが強調され、さらなる偏見と差別を受けるようになった。このような逆境においてアラブ系アメリカ人のアメリカにおける適応と共同体との関

係などのアイデンティティをめぐる諸問題は現代アメリカが抱える深刻かつ重要なテーマの一つであるといえる。

研究機関中の平成 23 年度においては、主にアラブ系アメリカ人女性文学研究とメキシコ系アメリカ人女性文学研究を行った。文献資料やデータベースをはじめ、米国の大学院におけるアメリカ文学やアメリカ研究のシラバスや研究協力者による情報提供などからアラブ系アメリカ人およびメキシコ系アメリカ人女性文学とその歴史を調査した。そして、特にアラブ系アメリカ人女性作家である Diana Abu-Jaber、また、メキシコ系アメリカ人女性作家である Sandra Cisneros、Gloria Anzaldúa について学会研究会において発表し、また、Sandra Cisneros についての論文発表を行った。

平成 24 年度においては、メキシコ系アメリカ人、アラブ系アメリカ人に加えて、アジア系アメリカ人によるエスニック・アメリカ女性文学研究を行った。カリフォルニア大学バークレー校エスニック・スタディーズ研究科とその図書館、そして、メリーランド大学図書館および大学院アメリカ研究科において、各種データベース利用による文献・資料調査・分析をはじめ、大学院におけるアメリカ研究やアメリカ文学の授業に関する聴き取りやシラバス調査、研究協力者による情報交換を行った。そして、特にアジア系作家 Jhumpa Lahiri、Katherine Min、Annie Choi、Thi Diem Thuy Le や、アラブ系作家 Diana Abu-Jaber、Marsha Mehran などの調査と研究を行った。また、メキシコ系女性作家である Gloria Anzaldúa の文献・資料収集をし、分析と考察を引き続き行い、論文発表をした。そして、アジア系アメリカ人女性作家である Jhumpa Lahiri について学会発表を行い、プロシーディングズを出版した。

平成 25 年度は、これまでの研究を継続すると同時に分析を横断して行い、「New Americans」およびエスニック・アメリカ文学としての分析を進め、全米的な見地からエスニック・アメリカ文学について考察した。また、ミネソタ大学のエスニック・アメリカ女性文学のデータベースへの掲載準備を行うことを目標とした。また、研究活動を通じて得た情報をもとに、イリノイ大学、シカゴ大学で文献資料調査・収集を行い、MLA 学会において研究情報交換をした。とりわけ、今年度は 21 世紀において人口増加し、多様性を深め、社会的影響力を強めているアジア系アメリカ文学を中心に研究を行い、論文 1 本を発表した。

以上のように、研究期間内にはアラブ系アメリカ人、アジア系アメリカ人、メキシコ系アメリカ人による 1965 年以降の各現代エスニック・アメリカ女性文学における自己/コミュニティの表象の作品の研究を行った。その結果により、注目すべき作家作品を選択し、主に人種/エスニシティ、ジェンダー、階級な

どの文化的差異に注目し、身体とアイデンティティ形成の表象について分析・考察を行った。

申請者がこれまで研究してきた作家作品は、近年アメリカの大学のアメリカ研究科の授業やゼミなどで扱われるなどアメリカン・スタディーズにおいて注目されているが、研究はまだ集積されていない。しかし、「New Americans」とそのエスニック・コミュニティは急速に人口を増していると同時に、今後アメリカ内外で、文化、社会、政治において存在感を増していくグループである。彼女たちのエスニック・コミュニティおよび自己の表象と、アイデンティティ形成に関わる研究は今後の「アメリカ」を考える上で引き続き重要性の高い研究だと考えられる。

この研究はマクロ的な視点による量的研究からは見えてこない、現代アメリカ人の姿を映し出し、アイデンティティの諸問題を究明する事例研究にもなる点において特色があるといえる。また、本研究では、最終的にはこれらの「New Americans」の作品の横断的な比較分析と考察を通して、多様化する現代アメリカ人女性を取り巻く文化とアイデンティティ形成に関し、それぞれのエスニック・グループにより個別化および一般化してされるべき事象が明らかにしている。

これまでの研究においては、アイデンティティが社会において流動的で多義性を持ち、曖昧さに開かれたものとして絶えず生成され、更新され続けるものであることを示している。現代エスニック・アメリカ女性作家たちによる身体とアイデンティティの形成の表象は、文化的差異の折衝を語る上で共通点は多い。彼女たちの創作が、多文化・多様性を表現し、とローカルかつグローバルなパースペクティブを提示することにより、現代アメリカの脱中心化に寄与していることを検証した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

Asami Watanabe "Literary Constructions of the Japanese Diaspora: The Rewriting of Japanese folktales in Lee Ann Roripaugh's Poetry." 『札幌大学総合研究』査読無、第 5 号(2014):1-15.

渡部 あさみ 『Jhumpa Lahiri の『Unaccustomed Earth』における新アメリカ人の越境とグローバリティ』第 85 会大会 Proceedings 査読有、日本英文学会 (2013):113-14.

Asami Watanabe "Living Sin Froteras: Transforming Body and Ethnic Mythologization in Gloria Anzaldúa's Works." 『札幌大学女子短期大学部紀要』査読無、第 60・61 合併号(2013):95-123.

Asami Watanabe "Caramel Rebozo and Weaving

Cultural Memory: Haunted Body and Story-Telling in Sandra Cisneros' Caramelo or Puro Cuento." 『札幌大学女子短期大学部紀要』査読無、第 58・59 合併号(2012):5-32.

〔学会発表〕(計 2 件)

渡部 あさみ 『Jhumpa Lahiri の Unaccustomed Earth における「新アメリカ人」の越境とグローバリティ』日本英文学会北海道支部大会(北海学園大学)2012 年 10 月

渡部 あさみ 『エスニック・アメリカ女性文学における身体』北海道大学英文学会・研究報告会(北海道大学)2012 年 5 月

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

渡部 あさみ (Watanabe Asami)

札幌大学・地域共創学群・准教授

研究者番号: 90455006

(2)研究分担者

該当者なし

(3)連携研究者

該当者なし